看護理工学会
The Society for Nursing Science and Engineering

ニュースレター

No.12
2024年2月発行

このたびの令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と1日でも早く平穏な生活に戻られますことを心よりお祈り申し上げます。

今号のトピックス

◆リレー執筆第4弾

“新理事様ご挨拶”

① 太田裕治（お茶の水女子大学 副学長）
② 苗村潔　（東京工科大学大学院 医療保健学部 臨床工学科 大学院　臨床検査学専攻　教授）
③ 森武俊　（東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科 教授／日本医療研究開発機構（AMED）医療機器・ヘルスケア事業部 プログラム・オフィサ）
④ 渡辺哲陽（金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 教授）

◆第12回看護理工学会学術集会のご案内

第12 回学術集会長 峰松健夫（石川県立看護大学 看護学部 教授）

https://nse2024.net/

◆リレー執筆第4弾　“新理事様ご挨拶”

① 太田裕治（お茶の水女子大学 副学長）

　この度、理事を拝命致しました、お茶の水女子大学太田裕治でございます。何卒、宜しくお願い申し上げます。私は平成25年から31年まで、理事を務めさせて頂きましたので今回再度の登板となります。その時は第6回学会大会の開催が担当でした。今回は教育担当となります。産学連携やイノベーションなどにおけるこれまでの経験から、微力ながら学会員皆様のお役に立てます様、努力して参る所存でございます。
本学のこととなりますが、2022年にジェンダード・イノベーション研究所を立ち上げました。ジェンダードイノベーション(以下GI)とは男女の性差（生物学的な性sexおよび社会的な性genderの両方）に着目し、これまでの技術や製品を見直す、また、不具合のない新しい技術を作っていこうとする考え方です。従来技術にはややもすると男性視点で作られ、不具合や（より悪くは）害を及ぼすものもあると言う考えに基づきます。広義的にはDEIやフェムテック／ケアテックも包含する概念と考えています。その観点では看護理工学の分野には多くのGI要素があり得ると考えております。現在、具体的な研究事例として、高齢者施設や障碍者施設において、介護者と被介護者で性が異なる場合の介護状況（異性介護）について取り組んでおります。排泄や入浴などの介護場面で様々な課題を含むと考えております。このような看護理工分野におけるGIにつきまして、今後、会員皆様と広くディスカッションができればと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

最近の筆者、吉田美香子先生（東北大教授）との
看護理工学に関するディスカッション(2023/12/14)

“新理事様ご挨拶”

『工科系大学の看護学科は看護理工学に親和性が高い？』

② 苗村潔（東京工科大学大学院 医療保健学部 臨床工学科 大学院 臨床検査学専攻 教授）

昨年のコロナ禍のすきまを縫う形で対面開催にこぎつけた第10回看護理工学会学術集会を主催させて頂いたのがきっかけで、看護学科およびデザイン学部の先生方と共同研究する場が実現できました。ニーズを丁寧に把握して、少しずつでも進めていきたいと思っています。今は、幼児前期の点滴について、本質的な課題を探りつつ、シーネなどで動きを拘束せずにカテーテルの様子を確認できる仕組みを模索すべく基礎的な実験を行なっています。
さて、全国の看護学部の一覧を見たところ、工科系大学で看護学部または看護学科があるのは、東京工科大学、神奈川工科大学、足利工業大学でした。他に理工学部がある総合大学（上智大学など）や〇〇科学大学もあり、社会のニーズに沿って、看護師養成課程のある大学の多さに改めて気づかされました。看護理工学の研究を受け入れやすい土壌がある環境として、これらの工科系大学に所属する看護学があるのではないでしょうか。看護師養成課程は非常に多くの事項を学ぶことが求められ、学外への実習の日数が多いのが特徴かと思います。そのため、工科系大学のカリキュラムとの整合性は正直低く、同じ大学でも別々の存在となっているのが現状なのかもしれません。
学会の活性化の一案として、これらの工科系大学への働きかけを考えています。まずは、次世代委員会が開催している「ものづくりワークショップ」や「ニーズ解釈体験ワークショップ」への参加案内が効果的かと思っています。

静脈留置カテーテルが抜ける力の
計測で使用したファントム

“新理事様ご挨拶”

『エビデンス，ナラティブと看護理工学』

③ 森武俊（東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科 教授／日本医療研究開発機構（AMED）医療機器・ヘルスケア事業部 プログラム・オフィサ）

現代の科学は経験論的・帰納的で，仮説に基づき設計された実験で検証を進めエビデンスを形成すると考えられている．すなわち，必ずしもメカニズムや仕組みが分からなくとも知見・知識は獲得されるというわけである．このある意味不確かなことに依拠して実践，活用が行われている．工学にせよ看護学にせよ，人を対象としてより良いモノやサービスを提供するためにサイエンスに基づいたアプローチをとっている．

最近，理論物理学は共通理解が成された理論を組み合わせて演繹的に現象を説明し予測しようとするので，これはまさにナラティブのアプローチなのではないかという言説を目にした．確かに，誰もが理解できる動きがあり共通するものがあるという考えを前提に，データを集めて整理したり大量のデータに基づいて仮説を立てたりするわけでもなく，説得性の高い物語をツールとして，分解された筋を演繹的に積み重ねることで理解や説明を試みている．対象が人で動くのは心身だというのが医療におけるナラティブであろう．

工学研究には実証のn数が十分確保できない，看護研究には客観的で計測可能なデータを得るのが難しいという，それぞれである意味分野コンプレックスにつながる課題を抱えている．ここからエビデンス形成のための型式を優先し過ぎ，未来のウェルビーイングを創る営みの本質を置き去りにしていることに気づかずにいることが増えていそうである．「仮説検証研究から得られるエビデンスはひとつの説得的言語である」とも言われる．エビデンスはナラティブの一部で包含されていると考えた実践科学のプレシデントとして看護理工学を位置づけて行けないだろうか．

“新理事様ご挨拶”

『看護理工学の国際化』

④ 渡辺哲陽（金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 教授）

学会が設立されて10年が経過し，初期の熱気も落ち着いてきたこの頃，「看護理工学」という学問の価値や重要性を改めて考える時期に来ているように思います．少子高齢化が進む日本において，看護と理工学の融合は，未解決の問題を多く抱える「ブルーオーシャン」な分野です．一方，工学系の先生が少なくなったなという印象を持っています．看護分野は即効性が求められる一方，工学分野ではデバイス開発に長い時間がかかります．そのギャップが研究への参加を躊躇する壁になっているのかもしれません．

（次ページに続く）

互いにそのギャップを気にせずに好き勝手研究し，その成果を互いに批評するのはいかがでしょう？境界領域の研究や融合研究だけでなく，ある程度看護側または工学側に特化した研究をあえて奨励し，その成果を共有する場を設けることを提案します．異なる視点からの研究が交わることで，新しいアイディアが芽生えるかもしれません．さらに，分野の国際化を促進することも重要でしょう．国際的な注目を集めることができれば，より多くの若手研究者がこの分野に魅力を感じ，その発展に貢献するかもしれません．

この度，ロボット工学の主要な会議であるIEEE ICRA 2024へと投稿していた［Nursing Robotics］のワークショップ企画が採択されました．理事長をはじめとする看護理工学会の関係者の皆様に多大なご支援をいただいたおかげであります．改めて御礼申し上げます．このワークショップは，招待講演，ポスターセッション，パネルディスカッションで構成され，2024年5月13日または17日に開催予定です．看護理工学分野の国際化を推進する絶好の機会です．ポスターセッションはこれから申し込みを受け付ける予定です．Robotics はあまり気にされる必要はありません．看護理工学に関連するすべての内容を歓迎いたしますので，ご講演，ご参加をご検討下さい．QRコードからアクセスできるホームページに情報を随時発信していく予定です．申込先などはホームページをご参照下さい．

こうした取り組みを通じて，分野の進展と若手研究者の参画を促し，看護理工学会の未来への発展への道を切り拓いていければと思っております．

https://zkks.w3.kanazawa-u.ac.jp/ICRA2024/

◆第12回看護理工学会学術集会のご挨拶・案内

第12 回学術集会長 峰松健夫（石川県立看護大学 看護学部 教授）

まず、令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災者の救援、被災地の支援にご尽力されています方々に深く敬意を表します。

第12回看護理工学会学術集会が行われます石川県立看護大学は被災地に近いものの大きな被害は被っておらず、予定通りの開催に向けて実行委員長の大貝和裕先生を中心に準備に取り組んでおります。

第12回大会の会期は、2024年11月2日（土）・3日（日）でございます。

また、参加登録、演題登録の期間を下記の通りといたしました。

事前参加登録期間：2024年4月1日（月）～10月11日（金）
演題登録期間：2024年5月7日（火）～ 7月 8日（月）

（次ページに続く）

会場となる石川県立看護大学は、2000年に創立された公立の単科大学です。2004年には大学院が開設され、また専門看護師教育課程にも認可されました。また附属看護キャリア支援センターでは、看護師のキャリアアップや生涯学習の支援も行っております。このように看護学に特化した教育現場を理学や工学等看護学以外の研究者の皆様にご覧いただくことは、異分野連携の促進に繋がるのではないかと考えております。

本学は石川県の中部に位置するかほく市に所在しています。金沢市から車で30分ほどの田舎町ですが、日本海に面し数kmに渡って続く美しい砂浜と、能登半島最高峰の宝達山にはさまれた風光明媚な環境にあります。日本海に沈む夕日など、この素晴らしい環境を皆様に体験していただける企画も準備しておりますので、ご期待ください。

本学術集会では、異分野交流の促進を図るために一般演題を全てポスター形式とし、懇親会を兼ねたポスターセッションでご発表頂くことにいたしました。ワインや日本酒と、軽食をつまみながら、こころゆくまでディスカッションを交わしていただければと思います。また、優れた発表は優秀演題賞（4題）と大会長賞（1題）として表彰いたします。是非、多くの皆様に演題をご登録いただきますよう、お願い申し上げます。

特別講演や教育講演、シンポジウムなども大変魅力的なプログラムが決まりつつあります。順次情報を公開してまいりますので、ホームページ（https://nse2024.net/）を是非ご覧ください。

会場へのご移動は、公共交通機関の便がいいとは言えませんので、会期中は金沢駅よりシャトルバスを運行いたします。紅葉シーズンでもあるこの時期は交通機関や宿泊施設が込み合うことが予想されます。早めのご予約をお勧めいたします。

皆様のご参加を、スタッフ一同心よりお待ちしております。

会場となる石川県立看護大学

学会からのお知らせ

看護理工学会の最新論文は，
J-STAGEおよび学会HPで公開されています．
是非ご覧ください．

J-STAGE[看護理工学会誌]
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnse/-char/ja/

看護理工学会HP
http://nse.umin.jp

ホームページ
トップページデザインが
リニューアルします！

NEW

ニュースレター発行

広報委員会

委員長：浅野 美礼　（信州大学）
委員：大貝和裕　（石川県立看護大学）
内藤 紀代子（びわこ学院大学）
青木 真希子（順天堂大学）
寺澤 瑛利子（筑波大学）
岡山 久代　（筑波大学）

看護理工学会事務局

〒169-0072　東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業務内
TEL：（03）5291-6231
FAX：（03）5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp

広報委員会からのお願い

現在、トップページデザインリニューアルに向けて準備を進めています。デザインや機能に関しまして、何かご意見がございましたら、事務局もしくは広報委員会までお願いします。

また、会員皆様からの、ご投稿も受け付けております。看護理工学会を盛り上げていく記事をお寄せください。